

日本工学院専門学校		開講年度	2019年度	科目名	音楽業界研究4
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	資料等は必要に応じて配布する。				
担当教員情報					
担当教員	佐倉繁・甲原圭・永田志実		実務経験の有無・職種	有・トラックメーカー/企業作家	
学習目的					
社会から、誰かから求められるあらゆる音楽に対応するため、様々な条件や企画を提示しそれに沿った音楽制作を行っていく。 音楽制作の受注・発注の仕組みを理解し、実際の制作現場で行われるコミュニケーション、ファイルの扱い方、データのやりとり等に必要なスキルを身につけ、講師(発注サイド)と学生(受注サイド)として制作現場と同様にシミュレーションする。					
到達目標					
実践的に修得情報を稼動させて得意領域・不得意領域を早くに見つけ、双方のスキルアップを目指す。 さらに曖昧な言葉で伝えられた物をどのように形にするのか、修正(リテイク)をどのように行なっていくのか、やりたい事とやるべき事を判断する思考を身につける。 クリエイターとして仕事をするために必要な音楽的側面と人間的側面の能力の認識を持つ。					
授業概要	制作現場と同様にを前提とした課題提示、プレゼンテーション、データアップロード等も授業を通して行う。 課題による音楽的手法やパラメーターに関する情報、使用されるメディアや媒体に関する情報、 発注サイド・受注サイドでやりとりをしていく中で起こりうるトラブルやその対応といった具体的なケースもその都度解説していく。				
注意点	この授業では、昨今の音楽業界での既得権益層から認められなければ企業案件は取りにくい、との観点で、指示された物が作れるか、好きなジャンルでない物の発注にも期限内に納品できるかなどの中身の部分から始まり、外側の、礼節・マナー等についても評価を行う。理由のない遅刻や欠席は、それらが如何に致命的であるかを柔らかく指摘する。授業に出席するだけでなく、コミュニケーション能力を高める為、発注元を意識した学生同士の評価の機会を多く取り、双方向からの授業展開で他人からの情報も多く吸収し、技能の向上に努める事を目標とする。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	40%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画 (1回～15回)					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	音楽業界の仕組み③		発注と受注の仕組みを理解する。第3課題の告示		
2回	第3課題 発表と確認①		第3課題 第1回プレゼンテーション。データの受け渡しを確認する		
3回	第3課題 発表と確認②		修正のプレゼン、必要に応じて個別のフォロー、学生同士の教え合いも推進		
4回	第3課題 発表と確認③		さらに修正したプレゼンを行い内容に対しての添削を行う		
5回	第3課題 最終発表		第3課題の最終発表、第4課題の告示		
6回	第4課題 発表と確認①		第4課題 第1回プレゼンテーション。データの受け渡しを確認する		
7回	第4課題 発表と確認②		修正のプレゼン、必要に応じて個別のフォロー、学生同士の教え合いも推進		
8回	第4課題 発表と確認③		さらに修正したプレゼンを行い内容に対しての添削を行う		
9回	第4課題 最終発表		第4課題の最終発表、第5課題の告示		
10回	第5課題 発表と確認①		第5課題 第1回プレゼンテーション。データの受け渡しを確認する		
11回	第5課題 発表と確認②		修正のプレゼン、必要に応じて個別のフォロー、学生同士の教え合いも推進		
12回	第5課題 発表と確認③		さらに修正したプレゼンを行い内容に対しての添削を行う		
13回	第5課題 最終発表		第5課題の最終発表		
14回	プレゼンテーション概論		これまでの各プレゼンテーションの内容を討論する		
15回	まとめ		プレゼンテーションの方法、内容等の再確認 説得させるプレゼンテーションの形を理解する		